

喜べる勝敗

福島県

檜葉町少年剣道団

小学6年 鈴木陽央

「勝負あり。」「引き分け。」この一言で試合は決まっている。勝てば素直に嬉しくて、負ければ素直に悔しい。チームのため、そして自分のため。ただ、ひたすら勝つことだけを考えて頑張ってきた。しかし、今とは違うことがあります。まだ自信も何も無い未熟な私は、試合に勝って嬉しい。負けて悔しい。の気持ちしかありませんでした。

去年、5年生で挑んだ県大会予選地区大会、個人戦での決勝。多くの剣士、先生方に注目される試合。勝ちたい気持ちと不安でいっぱいな私。「優勝するぞ。」と自分の中で覚悟を決め挑んだ試合。「勝負あり。」相手に上がった審判旗。悔しくて初めて試合後に泣くことしか出来ませんでした。

しかし、この試合で私は初めて「負けてよかった。」と思いました。「喜べる勝ちと負け」、そして「喜べない勝ちと負け」があると気づいたからです。

先生からも、「一步も引かず自分で勝負に出て打ち負けたのは仕方ない。強い攻めをしていたから良い負けだ。」とアドバイスを頂き、これ以降、勝敗に関して考え方が大きく変わりました。

「喜べない勝利」は、何も考えずに打ち込み運良く一本が入り勝てた時。勝っても嬉しくない、何にも繋がらない勝ちです。

「喜べる勝利」は、自分でよく考え、試合の流れを作り、堂々とした攻めからの一本や、相手を動かしての応じ技を出して勝てた時です。勝てば嬉しく、もちろん先生からも「今の勝ち方はよかった。」と褒められます。

「喜べない負け」は、攻めずに不意に出て行った時に打たれたり、何も出来ずに打たれて終わり。または、何も考えずに試合に出た時です。この状態では試合での収穫も無く、次の試合に繋がることもありません。

「喜べる負け」を感じる時はいつもの試合とは違います。試合前に先生から必ず言われること、「自分の試合をして来い。」相手は自分より格上。打ちも速く気迫もあり強さを感じる。「試合開始」始まった時には相手に恐怖すら感じる。ただ、この時は違う。自分の中で「一生懸命やりきろう。」と言う気持ちになる。勝ちたい気持ちが大きい分しっかり考え、いろいろな技を使い試合が出来る。「勝負あり」やっぱり負けている。しかし、私の中では次に繋がる大きな収穫があります。

以前の私は「喜べない」試合が多かったと思います。不意に出て出ばな技を打たれたり、ただ打った面が入り勝ってしまったたり、攻めの剣道ではなく、待つ剣道をして攻め負けたりと、自分が気を抜いた瞬間に負けてしまうことが多かったです。

しかし、今の私は積極的に攻め込み、相手の技を引き出し自分の剣道で勝つことを目標に練習しています。特に私は小柄なため、出小手や返し胴などの応じ技を練習し、先生からもらったアドバイスをしっかり取入れ、試合で一本を決めたいです。

現在6年生になり、小学生最年長の私は年下で格上の選手との試合も多くあります。いつも「全力でやりきる」と決めているため、試合に気持ちが入り、勝ち負け関係なく泣いていることが多々あり、特に負けた時の悔しさは計り知れません。

先日も大きな大会に繋がる大事な試合で代表戦になった時、ここで勝てば全国大会へ行ける試合。先生が指名したのは私。試合が始まり決着が着かず延長戦。時間が経つに連れ剣先が高くなる。最後は相手に一本を取られ負けてしまいました。悔しくて泣くことしか出来ませんでした。

私は剣士としてこれからもずっと剣道をやって行こうと思います。「喜べる負け」から学んだ多くのことを生かし、最後は最高の「喜べる勝利」を納められるようにこれからももっと剣道を極めたいと思います。

だって、剣道が大好きだから。